

### 9. 月への還り路

懐かしい声が聞こえた  
生まれた星から懐かしい声  
「帰らなくちゃ…。」寂しいけれど  
これ以上迷惑はかけられない

優しすぎる言葉が苦しくて  
むしろ何も返せない私を  
君はその掌で今日も  
包み込んでくれた

※愛しいほどに 嬉しいほどに  
強く胸を締め付ける  
散らばった思い出だけじゃ君と離れられないよ  
月の光に隠れないよう  
空に君の名を残す  
泣き濡れた季節外れの  
冷たい風が吹き抜ける

幼い心を残して  
受け入れるだけの私達  
「おいてけぼりか…。」切ないけれど  
それがお互いの幸せならば

すこし大人になれる気がしてた  
違う路を歩んでいく事で  
不安も愛もない景色は  
あまりにも冷たい

切なさと呼ぶ 苦しさと呼ぶ  
意味がやっとなかったよ  
戻れない宇宙の中 今気づきはじめてたよ  
月の光に消されないよう  
空に思い出を流す  
散らばった流れ星だけ  
私の声を聞いている

※Repeat

### 10. キーワード

よりによってこのページだけ  
汚れて読めなくなっている  
よりによってあの言葉だけ  
霞んで見えなくなっている

幼い頃は悔やんでばかりで諦めてたけど  
その前後を読み解ければ  
今ならわかるかもしれない

これから変わる所など  
僕の心しかないので  
今さらそれらに気づいても  
誰の感情も変わらないが  
どこかで君がこぼしたはずのため息のように  
もう外された鍵を見つけない

幼い頃のあやまちばかりが胸を締めつける  
あのページを汚したのは  
僕だと本当は知ってた

今さら帰れる所など  
僕の記憶にはないので  
どうせさ他人は見えないのに  
誰の表情を気にしたのか  
いつしか僕はそんな弱さで触れずにいようと  
もう外せない鍵を見つめてた

よりによってあの言葉だけ  
霞んで見えなくなっている

これから変わる所など  
僕の心しかないので  
今さらそれらに気づいても  
誰の感情も変わらない  
ひらいたページの向こうには  
白い無限の物語  
今から始めてみようかな  
何もしないよりはマシだろう  
笑顔で君が掴んでみせた栄光のように  
さあゆずれない鍵を見つけよう

### 3. リボルバー

まるで見えない壁を創って  
出口を探す道化のようさ  
何もしてないヤツが笑って  
こっちを見てる相手にするヒマはない

繰り返される恨み辛み終わらせてきたさ  
今さら期待もしていない  
ああ心の闇が向くままに

「ぶっ放そうぜ？ミスター  
回せよリボルバー  
終わらせてアフターを楽しもう  
Ohあくまで一瞬で決めようぜ？  
どうせ興味もないんだろ？」

まるで炎を口に投げ込み  
飲み込みしもう道化のようさ  
いくら終えても認められても  
消えてくれないまぶたの裏の皮肉屋

ずっと聞こえる俺が俺を追い詰める声が  
消えた光がチカチカと  
ああ心の闇が笑ってらあ

※「震えるキング・フィッシャー  
気取ってたミスター  
祈るのはシスターの仕事だろ？  
なあそれほど神様がヤバいなら  
こんな弾丸は当たらない」

道化も何も承知だろう？  
ああ心の闇が誘ってる

「さあ…ぶっ放そうぜ？ミスター  
回せよリボルバー  
終わらせてアフターを楽しもう  
Ohあくまで一瞬で決めようぜ？  
どうせ興味もないんだろ？」

※Repeat

### 4. Weakness

どこに行けば答えは見つかるのだろうか？  
それを軸に道を選んだけど  
どれほど形に残しても  
気持ちは置いてけぼり

いくら僕が正しさを手に入れても  
どんな場所でそれを言えたとしても  
言葉や瞳が宿すべき  
力が見えない事には…

君にはそう決して見せられない弱さが  
部屋の隅であふれだした  
こんな夜も強くいられたなら  
ああ…言葉は息をするのに

ずっと部屋の明かりを消していたからか  
なくしていた指輪を見つけたら  
どれほど微かな光でも  
眩しく映るようになった

世界は昨日と変わらない  
違うのは僕の中の闇の広さ  
目をそらさず向き合えたのならば  
ほら？歩幅は合わせられるさ

いろんな場所に行くのもいいよ  
だけど此処にある光も知ろう  
気にも留めず見過ごしてきた  
月日の中から集めるのさ

君にはそう決して見せられない弱さが  
部屋のドアを飛びだす  
逢いたい行かないや伝えたい事がある  
涙の跡がばれてても  
君とほんの小さな喜びを  
ああ…一緒に分かち合うため

まだ君とは引き返すほど  
夢も見えていない